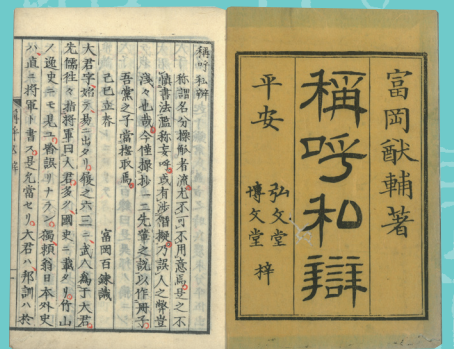


鉄斎美術館・宝塚市立中央図書館聖光文庫共催企画展

本づくりの世界

— 富岡文庫と鉄斎の著作・画集を中心に —



令和6年12月8日(日)～令和7年2月11日(祝・火)

会場：宝塚市立中央図書館 聖光文庫

開室時間：午前10時～午後5時《入場無料》

休館日：水曜日、第2金曜日、年末年始(12月29日～1月3日)

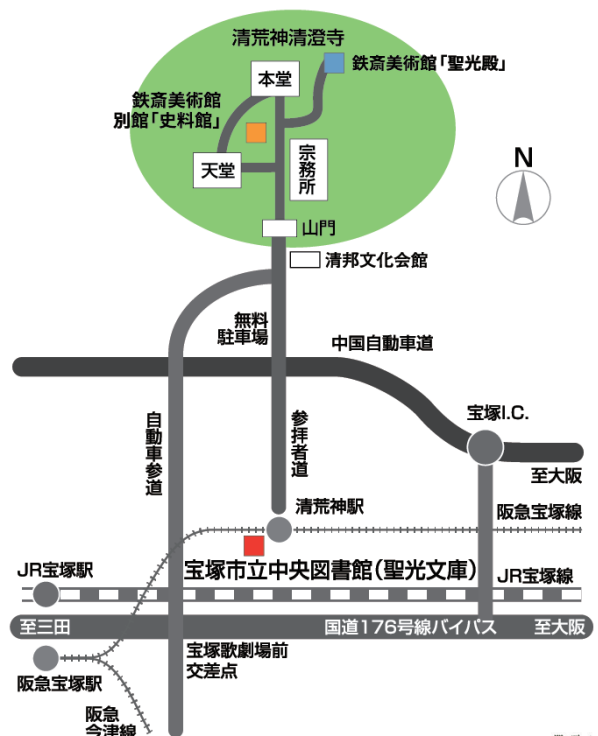
[阪急宝塚線 清荒神駅前] TEL 0797(84)6121 〒665-0836 宝塚市清荒神1丁目2番18号

【主な展示品】

名称	筆者・著者ほか	制作・発行年	摘要	所蔵
【 作品 】				
長生殿図	浮田一蕙筆、千種有功賛	江戸時代後期	1 幅 富岡鉄斎旧蔵	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
旧幕名土遺墨合装	林鶴梁・羽倉簡堂・富岡鉄斎・椿椿山筆	江戸後期～明治時代	1 幅 富岡鉄斎旧蔵	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
掃心図画序文	長尾雨山筆	大正 10 年(1921)	1 幅 富岡鉄斎旧蔵	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
胎咲墨戯	富岡鉄斎原画	大正 12 年(1923)	1 帖	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
【 図書 】				
仙仏奇踪	洪応明編	万暦 30 年(1602)	4 冊 富岡鉄斎旧蔵	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
茶話指月集	久須美疎安編	元禄 14 年(1701)	1 冊 富岡鉄斎旧蔵	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
近世畸人伝	伴蒿蹊著、三熊花顔画	寛政 2 年(1790)	5 冊 富岡鉄斎旧蔵	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
孫呉約説	何言著、富岡鉄斎校	慶応 2 年(1866)	1 冊	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
鉄荘茶譜	富岡鉄斎著訳編	慶応 3 年(1867)	2 冊	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
草茅危言	中井竹山著、富岡鉄斎校	明治元年(1868)	5 冊	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
称呼私弁	富岡鉄斎著	明治 2 年(1869)	1 冊	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
絵事鄙言	桑山玉洲著、富岡鉄斎写	明治 18 年(1885)	1 冊 富岡鉄斎旧蔵 原本:寛政 11 年(1799)	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
等伯画説	日通編、富岡鉄斎写	明治 27 年(1894)	1 冊 富岡鉄斎旧蔵 原本:元禄元年(1688)頃	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
恤刑茅議	中井履軒著、富岡鉄斎輯	江戸後期～明治時代	1 冊	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
百東坡図	富岡鉄斎画、堀喜二編	大正 11 年(1922)	1 冊 高島屋呉服店美術部発行	聖光文庫
(複製) 秘府略 卷第八百六十八	滋野貞主編	大正 12 年(1923)	1 巻 富岡鉄斎旧蔵 原本:平安時代	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
米寿墨戯	富岡鉄斎画、堀喜二編	大正 13 年(1924)	1 冊 高島屋呉服店美術部発行	聖光文庫
【 板木 】				
『称呼私弁』板木		明治 2 年(1869)	15 枚 富岡鉄斎旧蔵	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
『胎咲墨戯』のうち 「繰車授書図」板木	富岡鉄斎原画	大正 12 年(1923)	7 枚 富岡鉄斎旧蔵	清荒神清澄寺 鉄斎美術館

日本の本づくりは奈良時代以降、中国から伝来した製紙・印刷・製本技術を楽しむことで発展しました。平安時代までは手書きによる写本が主流でしたが、鎌倉・室町時代には一枚板に彫刻して刷る製版印刷の技術を用いた木版印刷物が普及します。江戸時代には専門的な書物から民衆の読み物まで幅広く展開し、豊かな出版文化が育まれました。また用途にあわせて卷子本、折本、冊子装本等、さまざまな体裁の本が生み出されました。

近代文人画の巨匠富岡鉄斎(1836～1924)は、あらゆる和漢の書物を蒐集し読破したことで知られていますが、読むだけでなく漢籍を和刻したほか、自ら著した『称呼私弁』等を出版しています。本展では、鉄斎の愛蔵本や著作・画集、印刷に用いられた板木(版木)、日本最古の類書『秘府略』の複製等を展示し、時代や目的によって変化する本の印刷技術と体裁の魅力を紹介します。



鉄斎美術館・宝塚市立中央図書館聖光文庫共催
第 10 回聖光文庫文化講座

「富岡鉄斎とやまと絵
— 篆刻家・羽倉可亭の関係資料とともに —」

梶岡 秀一 氏 (京都国立近代美術館 学芸課長)

日時: 2024 (令和 6) 年 12 月 8 日 (日)
午後 2 時 15 分 ~ 3 時 30 分 (受付: 午後 1 時 50 分 ~)

会場: 宝塚市立中央図書館 2 階集会室

申込・問い合わせ: 0797-84-6121 (中央図書館)